

イクボスアワード2020受賞者に聞く！

イクボスインタビュー集

管理職
必見！





グランプリ

社会福祉法人スプリング

人手不足の介護業界において ICTの導入による業務効率化



ケアプラザ福寿草(在宅介護部門)所長

大久保 友紀子 さん

■「イクボス」になる前の働き方を教えてください。

「子育てを理由に休んだり早退するのは良くないこと」「職場に迷惑はかけられない」と思い、実家の両親や夫に頼って仕事と育児に躍起になっていました。今思えば、仕事も育児も中途半端でイライラして過ごしていたように思います。小さいころの長男には寂しい思いをさせたかもしれません。

■「イクボス」になった出来事やきっかけを教えてください。

子どもが発熱し両親に迎えを頼んだ時、上司に「そんな時ぐらい親が抱きしめなくてどうするの？ 帰らなさい。」と言われました。「子どもを選んでいいんだ…」と涙が口れたことを覚えています。それから同僚にも部下にも、子どもと一緒に時間を大事にするように伝え続けています。その時の上司が現施設長であり、様々な取組が評価され平成元年8月に「あおりイクボス宣言企業」として登録されました。

■部下の仕事と家庭の両立に対する配慮や工夫を教えてください。

常日頃から会話を多く持ち、家族状況等をできる範囲で把握するようにしています。それによりプライベートで何か困ったことがあった時に相談しやすい関係を築いています。相談を受けた時は、職員自身が家族の為にどうしたいのか、その為にはどのような働き方がベストなのか、一緒に考えるようにしています。両立に苦しみ「退職」という選択をしないように、いろいろな働き方を提案しています。

■「イクボス」として、業務効率を向上するための工夫を教えてください。

ICT化により記録に要する時間と書類管理の削減に取り組みました。同時に時間外勤務の事前申請により、業務内で時間を捻出し時間外労働の削減に繋げ、メリハリのある就業環境を目指しています。また、介護機器を導入し、ノーリフティングケア推進施設となりました。持ち上げない介護は職員の年齢や体力に

関わらず、一人でも安全に介助ができ、業務の効率化につながっています。さらに腰痛予防効果もありました。

■ご自身の仕事と家庭やプライベートの両立について教えてください。

2人の子どもは高校生と中学生となり育児はひと段落しました。5年前に母親が倒れ要介護状態となり、入浴介助の日は半日勤務、通院介助の日は年次休暇など、子育て時期同様に支援を受けながら仕事を続けています。職場には私の家族状況や両立生活について話しており、理解ある上司と部下に支えられています。

■新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、部下の仕事と育児の両立支援等で工夫していることを教えてください。

不安定な時期だからこそ、これまで以上にWLBへの支援が必要と考えています。可能な限り個々が置かれている状況、事情を職員たちと共有し、介護職であるからと行動を制限したりすることなく、感染予防対策をしっかりと行った上で普通の日常生活を送るよう促しています。誰かが休むから現場の負担が増すということではなく、随時業務調整をしながら誰一人欠ける事のない職場作りに努めています。



部下から イクボスに

一言!

何にでも全力投球、それでいて周りを明るくする才能を持ち、どこに居るかすぐにわかるハツラツとした声、いつも輪の中心に居て周りにいる人をニコニコさせ、それでいて涙もろい大久保所長。仕事はきっちり出来て、部下のトラブルや迷いにも前向きに導いてくれるボス！プライベートでは母、妻、娘をすべてこなす女性。疲れなにか心配

スタッフ代表田村 由香 様 より

になることもありますが、朝一番の「おはようございます！」の所長の声で毎日元気をもらっています。いろんな役目を背負っていても、そんな事をみじんも感じさせない所長に、グランプリはぴったりの称号だと思います。おめでとうございます。最高のボスです！